

自分の身を守るために

防災・防犯・交通安全の 手引き

中学生用



子どもたちのセーフティプラン

福岡市

INDEX

防災の手引き 1

第1章	風水害について	1
	1 集中豪雨	1
	2 大雨注意報・警報	2
	3 福岡市の河川	2
	4 洪水時の避難方法	3
第2章	地震について	4
	1 地震災害	4
	2 地震の仕組み	4
	3 震度とマグニチュード	5
	4 地震が起きたら	6
	5 津波にも注意を	6
第3章	災害対策について	7
	1 家庭での防災会議	7
	2 校区での防災対策	7
	3 中学生にできること	8

防犯の手引き 9

第1章	防犯について	9
	1 「万引き」はドロボウだ!!	9
	2 他人の自転車を勝手に乗り回せば犯罪だ!!	9
	3 未成年者の飲酒や喫煙は法律違反だ!!	10
	4 無免許運転は悪質な犯罪だ!!	10
	5 覚せい剤やシンナーなどの乱用はあなたの身を破滅させる!!	11
	6 暴力団は犯罪者集団(アウトロー集団)だ!!	11
	7 「いじめ」は人間として最低の行為だ!!	13
	8 学校などの公共物へのいたずらは犯罪だ!!	13
	9 「売春」はあなたの身体を傷つけ心まで汚すもので法律違反だ!!	14
	10 「出会い系サイト」は危険がいっぱいだ!!	14
	11 「プロフ」、「電子掲示板」などへのいたずら書きが 人の生命をも奪うことを忘れるな!!	14
	12 性的被害に遭わないために、あなたならどうする!!	15

自転車安全利用の手引き 16

第1章	自転車の現状について	16
第2章	自転車安全利用5則について	16
	1 自転車は、車道が原則、歩道は例外	16
	2 車道は、左側を通行	16
	3 歩道は、歩行者優先で、車道寄りを徐行	16
	4 安全ルールを守る	16
	5 子どもは、ヘルメットを着用	16
第3章	歩道は、歩行者優先で、車道寄りを徐行!	17
第4章	おしチャリについて	17
第5章	ながら運転は絶対にやめよう!	17
第6章	自転車事故の代償について	18
第7章	乗車前点検について	19
第8章	迷惑駐輪の禁止について	19

防災の手引き

第1章 風水害について

1 集中豪雨

① 集中豪雨とは

短時間の内に狭い地域に集中して降る大雨を集中豪雨と呼んでいます。

非常に激しい雨が何時間も同じ場所に降り続くと、大きな災害となります。

集中豪雨が起きたときは、素早く行動することが大切であり、自らの身を守るため、日頃からの準備が重要となります。

福岡市でも、平成11年6月29日と平成15年7月19日及び、平成21年7月19日から26日の集中豪雨により、洪水が発生し、特に御笠川、宇美川流域や博多駅地区周辺などで大きな被害を受けました。

被害種類		平成11年6月29日	平成15年7月19日	平成21年7月19日～26日
死者		1	0	0
重軽傷者		1	4	7
家屋全壊・半壊		0	3	2
家屋一部破損		0	7	11
住家浸水	床上	1,019戸	909戸	256戸
	床下	2,154箇所	850箇所	866箇所
地下施設浸水	浸水面積	132ha	128ha	—
	浸水棟数	81棟	97棟	—

平成11年6月29日と平成15年7月19日の被害状況



博多駅周辺の様子(H15.7.19)



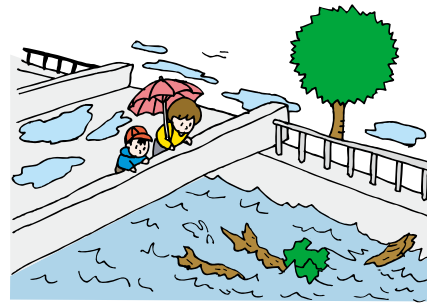
博多駅地下街へ流れる水の様子(H11.6.29)

② どのようなときに発生するのか

- 日本付近に前線が停滞しているとき(特に梅雨の終わりごろ)
- 台風が日本へ近づいているときや上陸しているとき
- 大気的不安定な状態が続き、次々と雷雲が発生するとき

③ 集中豪雨が起ると

- 河川が急に増水したり、はん濫したりします。
- 家屋が浸水したり、道路が冠水したりします。
- 土砂崩れやがけ崩れが発生します。
- 地下街や地下室へ水が流れ込みます。



平成20年7月には、神戸市の都賀川^{とががわ}で集中豪雨による急激な河川^{とががわ}の増水により、児童を含む5名が逃げ遅れ死亡するという痛ましい事故が発生しています。

川を利用する場合は、次のことに注意しましょう。

川のことをよく知ろう 急な増水に注意!

① 川に行く前に



必ず天気や川の情報をチェックしましょう。急な雨で、川が増水することもあります。

② 川に着いたら



川に関する看板があれば確認しましょう。

③ こんな場所は急な増水に注意!



川原は、増水時には川底になります。特に中州にいると、増水したら取り残されてしまうので注意!

④ こんなときはすぐに避難!

- 1 山鳴り(山全体がうなるような音)がする。
- 2 水かさが増え、濁ったり、流木、落ち葉が流れてくる。
- 3 雨が降っているのに、水かさが減っている。
- 4 腐った土・火薬のようなにおいがする。

2 大雨注意報・警報

気象庁は、大雨などの気象現象によって、災害が起こるおそれのあるときに「注意報」を、重大な災害が起こるおそれのあるときに「警報」を発表して、注意や警戒を呼びかけます。

大雨注意報や警報、洪水注意報や警報が発表されているときは、十分に注意し、川などには近づかないようにしましょう。

3 福岡市の河川

福岡市域内には、多々良川、御笠川、那珂川、樋井川、室見川、瑞梅寺川など、130本の河川があります。これらの河川は福岡平野を流下し、博多湾に流入するものが大部分です。

昭和30年代以後、これらの河川の流域では都市化が急速に進展し、地表面のほとんどが道路やコンクリートで覆われているため、降った雨は地面に吸収されることなく、大半が河川や側溝に集中して流れ込み、洪水となることがあります。

このように、都市構造がもたらす水害を「都市型水害」と呼び、平成11年6月と平成15年7月に福岡で起きた水害も、この「都市型水害」だと言われています。

また、福岡市の河川は比較的勾配が急であるうえに、河川の長さが短く、洪水到達時間が短い河川と言えます。

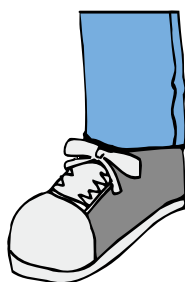
雨の強さと予想される被害の関係

1時間雨量 (mm)	予報用語*	人の覚げるイメージ	人への影響	屋内 (木造住宅を想定)	屋外の様子	車に乗っていて	被害発生状況
10以上～20未満	やや強い雨	ザーザーと降る。	 地面からの跳ね返りで足元がぬれる。				この程度の雨でも長く続く時は注意が必要。
20以上～30未満	強い雨	どしゃ降り。				ワイパーを速くしても見づら	側溝や下水、小さな川があふれ、小規模の崖崩れが治まる。
30以上～50未満	激しい雨	バケツをひっくり返したように降る。	傘をさしていてもぬれる。		 道路が川のようになる。	高速走行時、車輪と路面の間に水膜が生じブレーキが効かなくなる(ハイドロプレーニング現象)。	山崩れ・がけ崩れが起きやすくなり危険地帯では避難の準備が必要。都市では下水管から雨水があふれる。
50以上～80未満	非常に激しい雨	滝のように降る(ゴーゴーと降り続く)。	傘は全く役に立たなくなる。			車の運転は危険。	都市部では地下室や地下街に雨水が流れ込むときがある。マンホールから水が噴出する。土石流が起こりやすい。
80以上～	猛烈な雨	息苦しくなるような圧迫感がある。恐怖を感じる。					雨による大規模な災害の発生するおそれが高く、嚴重な警戒が必要。

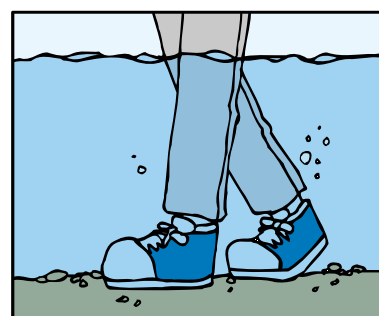
4 洪水時の避難方法

洪水のときはこうして避難

洪水の中を歩くときの注意！



裸足、長靴は禁物。ひもでしめられる運動靴がよいでしょう。



歩ける深さは男性で約70cm、女性で約50cm。水深が腰まであるようなら無理は禁物です。高所で救助を待ちましょう。



水面下にはどんな危険が潜んでいるかわからないので、長い棒を杖代わりにして安全を確認しながら歩きましょう。



はぐれないようにお互いの身体をロープで結んで避難しましょう。とくに子どもから目を離さないようにしましょう。



お年寄りや身体の不自由な人などは背負いましょう。幼児は浮き袋、乳児はベビーバスを利用して安全を確保して避難しましょう。

第2章 地震について

1 地震災害

平成7年1月17日に兵庫県南部地震(阪神・淡路大震災)が発生しました。死者は6,000人を超え、4万人以上の方が怪我をし、50万棟以上の建物が被害を受けました。平成16年10月23日には新潟県中越地震が発生し、68名が死亡しました。

平成17年3月20日には、福岡県西方沖地震が発生し、福岡市でブロック塀の倒壊により、1名が亡くなったほか、1,039名の方が負傷し、5,220棟の建物が被害を受けました。西区の玄界島をはじめ、西区西浦、宮浦、東区志賀島などの農漁村を中心に被害が発生したほか、都市部のマンションでも大きな被害を受けました。

また、平成23年3月11日には、東日本大震災が発生し、死者は15,000人を越え、100万棟以上の家が壊れ、9割以上の方が津波で亡くなりました。

地震は、台風や大雨などの風水害と違い、いつ、どこで起こるか分かりません。地震による災害を軽減するために、地震に対して事前に備え、地震が起こったとき、どのように行動するかを考えておくことが重要です。



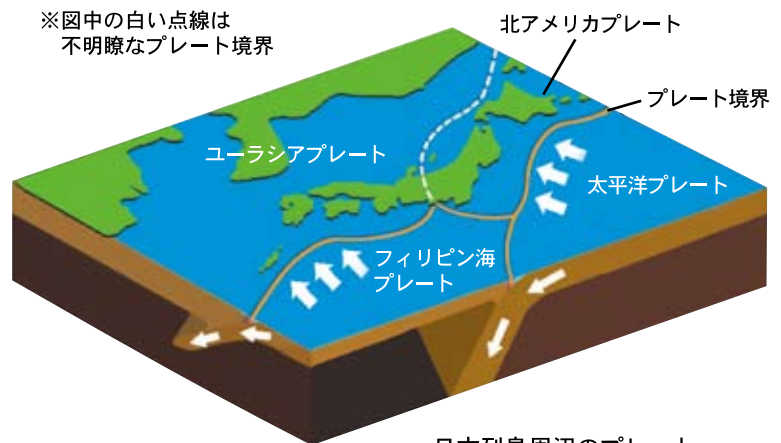
西方沖地震後の玄界島の様子



宮城県南三陸町の様子

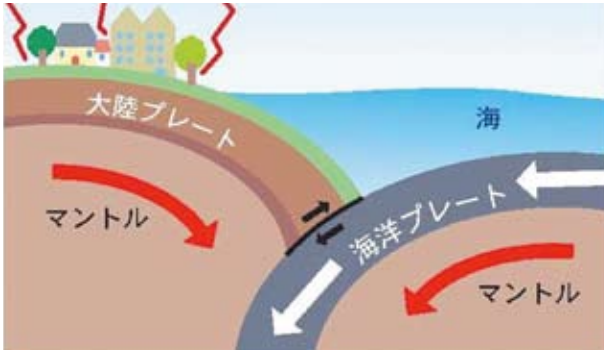
2 地震の仕組み

日本列島周辺では、地中のマントルの動きによって大陸プレート(ユーラシアプレート)と海洋プレート(太平洋プレートとフィリピン海プレート)とがお互いに押し合っています。そのため、長年にわたって蓄積されたエネルギーが限界を超えたとき、地下の岩盤が破壊され、それに沿って生じるズレが地震です。地震の種類として、プレート境界で起こる海溝型地震と地表近くの断層の活動による内陸直下型地震などがあります。



日本列島周辺のプレート

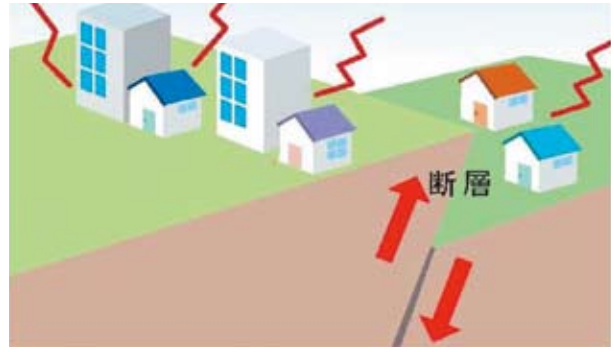
①海溝型地震



海洋プレートが大陸プレートの下に沈み込んでいくために、定期的大陸プレートが跳ね上がって起こる地震

- ・揺れている時間が長く、大津波が襲ってくる危険がある。
- ・数十年から100年単位の間隔で発生する。
- ・安政東海地震、東南海地震など

②内陸直下型地震



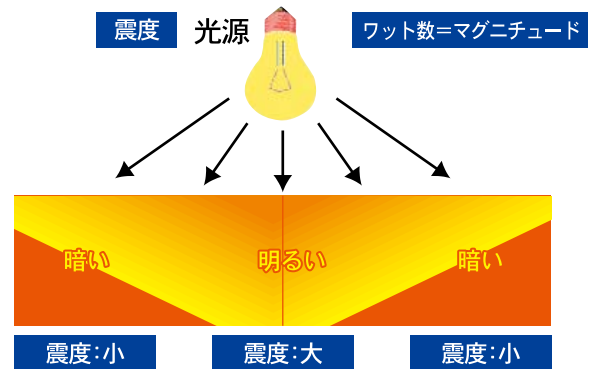
陸地の地下(ユーラシアプレートの内部)で活断層がずれて起こる地震

- ・揺れている時間が短い。
- ・都市直下で起こる危険性がある。
- ・千年～数万年の間隔で発生する。
- ・阪神淡路大震災、福岡県西方沖地震など

3 震度とマグニチュード

地震の強さを表すのがマグニチュードで、ある場所がどれくらい揺れたのかを表すのが震度です。電球に例えてみると、右の図のようになり、地震もこれと同じで、震源地から遠くなればなるほど揺れは小さくなります。

●マグニチュードと震度の関係



●震度による感じ方の違い

震度0	震度1	震度2	震度3	震度4
ゆれは感じませんが、地震計には記録されます。	屋内で静かにしていた人や、注意深い人がやっと感じます。	屋内にいる多くの人が感じます。電灯の傘がわずかにゆれます。	電灯の傘がよくゆれ、たなの食器が音を立てることも。屋内のほとんどの人がゆれを感じます。	かなりの恐怖感があり、外で歩いている人もゆれを感じ、家の中の置物が倒れることもあります。
震度5弱	震度5強	震度6弱	震度6強	震度7
窓ガラスがわれたり、たなの食器や本が落ちることも。多くの人が身の安全をはかろうとします。	人は思うように動けなくなり、固定されていない家具が倒れたり、食器や本が落ちて散乱します。	立つのが難しくなり、固定されていない家具の多くが移動して倒れます。建物の壁にひびが入ったり、ドアが開かなくなる場合があります。	立っていることができず、補強していないブロック塀のほとんどがくずれます。強度が弱い建物がこわれたり、倒れたりします。	建物がこわれたり、倒れることがあります。また、山くずれや大きな地われが生じることもあります。

福岡県西方沖地震(H17.3.20) マグニチュード: 7.0

震度 6弱…東区、中央区 5強…早良区、西区 5弱…博多区、南区、城南区 ※西区玄界島は震度計が未設置であったため、不明

4 地震が起きたら

地震による災害を軽減するためには、地震が起きたときにどのように行動するかということ、あらかじめ知っておくことや、考えておくことが大切です。

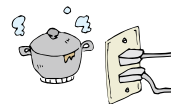
ポイント① まず自身の安全を確保しましょう。

テーブルや机の下に身をかくし、家具など倒れやすいものは転倒防止をしておきましょう。



ポイント② 火の始末は素早く確実にいきましょう。

揺れが静まってから、使用中の火はみんなで声をかけ合い確実に消しましょう。ガスの元栓を締め、コンセントを抜きましょう。



ポイント③ 戸を開けて出口を確保しましょう。

避難口を確保するため出口は必ず開けておきましょう。特にマンションなど中高層住宅では重要です。確実にいきましょう。



ポイント④ 火が出たらすぐ消火しましょう。

消火器の備えやチェックはもちろん、日頃から消火訓練を行っておきましょう。



ポイント⑤ 懐中電灯は必ず身の回りに備えておきましょう。

夜間などの停電や避難に備えて、身の回りの要所要所に懐中電灯を備えておきましょう。



ポイント⑥ 山崩れ、崖崩れ、津波に注意しましょう。

危険のある地域では早めに避難し救助員の指示に従って行動しましょう。



ポイント⑦ 避難は徒歩で、荷物は最小限のものにしましょう。

非常持出品は、日頃からリュックなどに入れてひとつにまとめておき、避難時はエレベーターや自動車は使用しないでください。



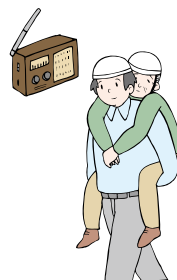
ポイント⑧ 塀ぎわ、崖、川、狭い路地などには近づかない。

避難時には、ブロック・門柱・自動販売機など倒れやすいものに近づかないよう注意しましょう。



ポイント⑨ 正しい情報のもとに慎重に落ち着いて行動しましょう。

携帯ラジオを備えておき、デマや噂に惑わされないよう、常に正しい情報のもとに行動しましょう。



ポイント⑩ 避難時は、みんなで協力して助け合いましょう。

お年寄りや身体の不自由な人、ケガ人などに声をかけ、みんなで助け合いましょう。初期消火などもみんなが協力して行いましょう。



5 津波にも注意を

地震が起きた後には、津波が発生することがあります。

テレビやラジオなどの津波の警報や注意報に注意しましょう。

大津波警報や津波警報、津波注意報が発表されたときは、海や川の側を離れ、できるだけ遠くて、高い場所に避難しましょう。